

聖トマス～イエズス会～ ヒन्दゥー原理主義

— 南インドにおけるキリスト教ミッションの歩みと現在 —



写真提供：山下博司

2018年11月10日(土) 土樋キャンパス
ホーイ記念館ホール
15:30～17:00

入場無料・申込不要 直接会場にお越しください

南インドのキリスト教宣教は、信憑性はともかく、イエスの使徒・聖トマスを嚆矢とし、今も残るゆかりの場所や教会は多くの信者を集める。しかし実質的な南インド宣教は、カトリック教会とプロテスタント諸派が信者獲得にしのぎを削った時期に本格化する。本講演では、マドゥライ・ミッションを中心とするカトリック・イエズス会の動きと、トランキバル・ミッションを代表とするプロテスタント系の布教活動を詳しく取り上げ、在地社会やカースト制との絡みについて考える。加えて、近現代インドにおけるキリスト教の意義をとくに教育や学問の方面から検証するとともに、ヒन्दゥー至上主義が昂じるなか、キリスト教徒が被る宗教的暴力の実態と背景事情に触れる。

講師

山下 博司
(やました ひろし)

東北大学大学院国際文化研究科教授

1954年仙台市生まれ。東北大学文学部・文学研究科博士課程を経て、1981～87年、マドラス大学ラーダークリシュナン哲学高等研究所博士課程に留学、Ph.D.を取得。山形大学教養部、名古屋大学言語文化部・大学院国際開発研究科（国際コミュニケーション専攻）、東北大学言語文化部・大学院国際文化研究科（比較文化論講座、多元言語文化社会論講座、国際環境システム論講座、多文化共生論講座）を経て現職。専門はインド思想・文化史、ヒन्दゥー教、タミル文学、インド映画論など。近年は、南インド・タミル系の移民社会を訪れ、在外インド人の宗教実践の調査にも従事。